

ニュース

インフラモニタリングシステムの早期実現に向けて ～「モニタリングシステム技術研究組合【RAIMS】」の始動～

1. はじめに

モニタリングシステム技術研究組合（略称：RAIMS（ライムス）（Research Association for Infrastructure Monitoring System））は2014年10月22日に設立され、12月2日都市センターホテル（東京都千代田区）において設立総会が開催されました。ここでは、モニタリングシステム技術研究組合の設立の目的と今後の活動計画について紹介します。

2. モニタリングシステム技術研究組合

モニタリングシステム技術研究組合は、損傷・劣化の状態監視を社会インフラの維持管理業務へ活用するため、センサや通信・データ解析技術等を活用したモニタリングシステムの社会インフラ分野への実用化導入を図ることを目的としています（図-1参照）。

本技術研究組合は、沖電気工業（株）、鹿島建設（株）、（株）共和電業、国際航業（株）、（独）土木研究所、中日本高速道路（株）、西日本高速道路（株）、日本工営（株）、日本電気（株）、能美防災（株）、東日本高速道路（株）、（株）日立製作所、富士通（株）、前田建設工業（株）の14者（50音順）が組合員として参画しております。

構造物の損傷・劣化の状態監視を行うための計測技術や計測データを収集・伝送する通信技術、データを分析評価する技術等には多種多様なものが存在します。しかし、これらを現場に活用するための明確なガイドラインが存在しないため、計測技術の適用方法等をインフラ管理者が判断できずに、本格的な現場導入に至っていないのが現状です。このような現状を鑑み、本技術研究組合は、これら技術を組み合わせることで効率的で合理的なモニタリングシステムを構築し、同システムを現地へ導入するためのガイドラインの提案にむけた研究を行います。なお、この研究の実施にあたり、内閣府が創設した「戦略的イノベーション創造プログラム」において、本技術研究組合は「モニタリング技術の活用による維持

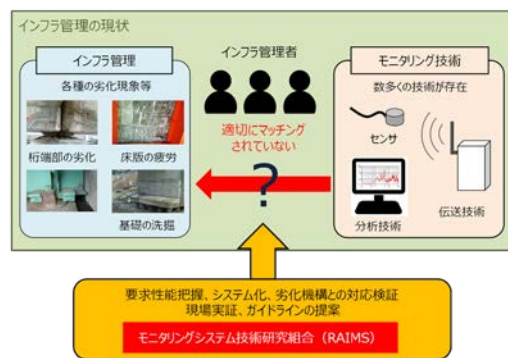


図-1 モニタリングシステム技術研究組合の概念図



写真-1 挨拶を行う依田照彦理事長

管理業務の高度化・効率化」を研究開発課題として申請し、11月28日に採択を受けました。

3. おわりに

設立総会の挨拶において、依田照彦理事長は「本技術研究組合は各分野を代表する方々が参画しており、組合員のもつ技術を結集することで、モニタリング技術の開発がなされ、世界のインフラに貢献することができるものと考えている」と述べられました（写真-1）。

土木研究所は、本技術研究組合においてモニタリングシステムの研究開発に積極的に貢献していくとともに、社会資本の戦略的な維持管理の実現を目指します。

(独)土木研究所構造物メンテナンス研究センター
 橋梁構造研究グループ 上席研究員 石田雅博
 同 主任研究員 宇佐美惣
 (独)土木研究所企画部研究企画課主査 武澤永純